

## 教員養成におけるダンス教育の課題

保健体育 佐分利 育 代

### Problems of Dance Education in Teacher—Training Course

Ikuyo SABURI

#### 1. 研究目的

平成3, 4, 5年度の, 全国舞踊研究会プロジェクト研究での現職教員を対象にした「ダンス指導実践に関する調査」を通して, 教員養成での経験がそのダンス観, ダンス指導観, 指導実践に影響することが改めて確認できた。<sup>(1)</sup> 特に, 大学での履修経験一年以上と一年未満・経験なしの間には大きな違いが見られ, 一年以上の大学履修経験が有効に働くことが認められた。一年未満の履修経験者の半数が, ダンスに対する印象が履修後マイナスに変化したとしており, 履修経験が指導に役立っているとする人も, 一年以上の履修者と比較して少ない。これらは, 履修内容の違い, 特に一年未満の履修では指導に関する内容や理論が不足すること, また創る活動も不足していることによるものであった。<sup>(2)(3)</sup>しかし一年未満の履修経験の小学校教員もその53.5%が指導を実践し, 指導が好きあるいは実践を通してだんだん指導が好きになったとした人がその7割いた。そして指導実践によって指導の手がかりをつかみ, 指導への自信へつなげていることの具体的な資料も得た。

また一方で, 「教員自身が重視する教育的価値を充足するダンスを教える, 教員自身が好まないダンスは教えない, 教員自身が踊れるダンスを教える」傾向も見られた。<sup>(4)</sup>

本学の小学校教員養成課程における学生のダンス経験は多くの者が, 6回の実技と2回の講義を受講しただけの一年未満の履修経験者となる。13年前に行った, 受講生への調査<sup>(5)</sup>からは, 「ダンスでは初歩的学習者であっても指導者としての目的意識を持たせ, できるだけ客観的に段階毎の学習目標や内容を知識として与えながら, ダンスの本質に触れさせ, 技能を自ら確認させる」という教員養成でのダンス指導の指針を得た。この指針をもとに指導計画を見直してきたが, 果たしてそれが実践を重ねる原動力となり得るようなダンス観やダンス指導観, 指導の手がかりを与えることができているであろうか。本報告では現職教員への調査結果を踏まえ, 平成7年度の3年次指定の「小学校体育(演)」受講生へのダンス受講直後の質問紙調査によって, 一年未満の受講でどのようなダンス観や指導観を持つことができたかそれが授業実践につながるための課題は何かを考察し, 変化していくこれからの教員養成でどのようなダンス教育が可能であるかの指針としたい。

\*Department of Physical Education, Faculty of Education, Tottori University

## 2. 研究方法

調査対象 平成7年度鳥取大学教育学部 小学校体育（演）受講生94人（男子25人，女子69人）

調査方法 質問紙調査

鳥取大学教育学部小学校教員養成課程，養護教員養成課程小学部における教科に関する科目のうち体育の必修授業科目としての「小学校体育（演）」（3年次指定）での内容である表現運動の最後の時間に調査票を配布し，受講後回収した。

- 調査項目 (1) 各時間の内容を理解して取り組めたか  
 (2) 自分なりの表現運動観を持てたか  
 (3) 自分なりの表現運動の指導観を持てたか  
 (4) どんな内容が印象に残ったか  
 (5) その他（今後のこの演習へのアドバイス等）

体育の教科に関する授業科目は2年次指定で陸上運動，器械運動，水泳を，3年次指定でボール運動と表現運動を内容としている。3年次指定の「小学校体育（演）」では，受講生を約50人毎のAとBの2クラスに分け，ボール運動と表現運動を同時開講している。受講生が約7回ずつで種目を移動する。他に，教職に関する科目，「小学校体育科教育法」（3年次）で表現運動に関する内容を約2回講義している。クラスにより授業実施期間，順序が若干異なるが実技内容は以下のである。

Aクラス 4月12日～5月31日

Bクラス 6月7日～9月27日

時間	学 習 目 標	学 習 内 容
1	ダンスイントロダクション 色々なものが見える	リズムカルなダンス（リズム からだ 動き・） フォークダンス（友だち 国・・・） 割箸を使って（友だちの力 気持 体の中） 走って止まる（風→今見えた風になる）
2	からだとからだの動きで形や動き 感じをとらえて動く	うごき・・・新聞を使って動く フォークダンス・・・テンプリティーガールズ リズムカルなダンス・・・メチャクチャダンス 表現・・・「しんぶん君」の動きを真似る
3	続けて動く	リズムカルなダンス・・・コンビネーション メチャクチャダンス フォークダンス・・・マイムマイム ハーモニカ 表現・・・シャボン玉の動き→「シャボン玉の一生」
4	うごきの感じを味わって続けて動く	フォークダンス・・・オールドプラスワゴン説明書解読競争 動きの感じを中心に小作品を創る・・・跳んで転がる リズムカルなダンスの作品を創る・・・繰り返し 変化，組み合わせ，隊形

時間	学 習 目 標	学 習 内 容
5	始めと終わりを創って続けて踊る 「ダンス甲子園湖山」	リズムカルなダンスの練習と発表会 リズムにのって 友だちと合わせて 全身で 一人一人の良さを生かして 衣装も工夫して グループのダンスをクラス全体のダンスへ 表現 大好きなところをみつけて、動く 「自然の驚異」で思い浮かべる事をグループ で見つける 最もそれらしい場面を動いてみる
6	大好きなところを中心に表現する 作品をまとめて練習し、発表する 「自然の驚異」	表したいことから創ってそれを生かす前後を創る 踊り込む 作品にふさわしい題をつける 発表会 (調査票配布)

### 3. 結 果

#### (1) 各時間の内容を理解して取り組めたか

「各時間の内容を理解して取り組むことができましたか」の質問には54.3%ができたと回答し、44.7%がだいたいできたとした。無回答が1人あった。男子と女子では男子の方にできたとした割合が低かった(図1)。

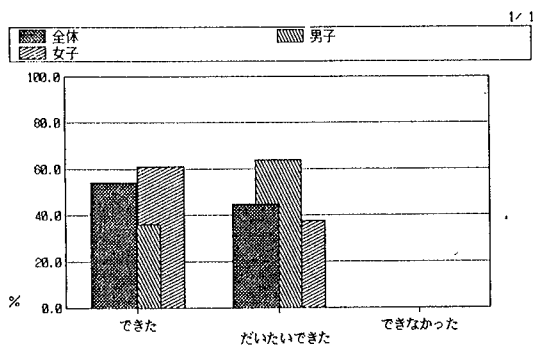


図1 内容の理解

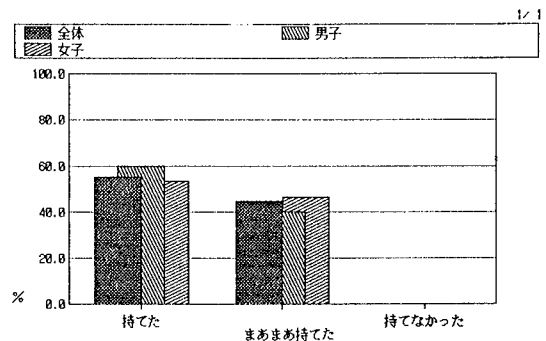


図2 表現運動(ダンス)観を持てたか

#### (2) 自分なりの表現運動観を持てたか

「自分なりの表現運動観を持てましたか」の質問に対しては、55.3%が持てたと回答し、44.7%がまあまあ持てたとしている。男女差はあまりなかった(図2)。

表1は、表現運動観の自由記述の内容を記述の多い順に分けたもので、数字は人数である。

表1 受講生の表現運動観

項目 (人)		内容 (人)
身体による表現活動としての表現特性に関するもの 56		身体全体を使って表現するすばらしさ 15 思い切りからだを動かす楽しさ 9 表現に意味がある 7 正解不正解が無く個性を引き出す 6 普段の自分以外の自分, 本来の自分が発揮できる 5 やりたいことを自由に表現する楽しさ 4 どう動いたらいいかわかる 3 色々なダンスがある 2 他人の良さを見つけられる 2 自分らしさが認められる 班毎いろいろのダンス 1 身体表現の難しさ 1 1
表現技能	動きの見つけ方 (創る技能) 28	型にとらわれず思う通りに動いてみるのが一番 11 なりきる 9 創る楽しさ 1 対象そのものからイメージをふくらませる 4 自分の内にあるものを見つめ, それを引き出す 3
	動き方 (隔る技能) 10	指先, 爪先まで使う, 大きな動きで動く 5 対象の重さ, 速さ, 大きさを身体の動きのスピード, 手の動き, 表情などで表すことができる 2 体を上下に動かすこと, 強弱をつけることで奥深い表現ができる 1 自分の動きがどう見えているかわかってきた 1 場面で一人一人の生かし方が違う 1
その他 8		面白くなった 4 協力する 3 考えていない 1

表現運動観としては、身体を素材とし身体運動を媒体とするダンスの表現活動としての特性そのものについての記述が最も多く、次に、実際にダンスをしてみても動きなど技能の特性に関するとなえ方が多く上げられていた。多くの受講生があげているのは、「体全体を使って表現するすばらしさ (15人)」「型にとらわれず思うとおりに動いてみるのが一番 (11人)」「思いきり身体を動かす楽しさ (9人)」「なりきる (9人)」で、表現としての楽しさと、それを味わうための方法が図らずも並んだ。

図3は、KJ法を手がかりに見た学生の表現運動観である。<sup>6)</sup>

「型にとらわれなくなった」とき、そして「恥ずかしさを無くした」ときに表現運動の楽しさが体験できる。楽しさは「表現」、しかも「身体全体での表現」の楽しさで、自分らしさ、自由、正解不正解がない等を包括した「個性」が、その楽しさのキーワードとなっていた。「自由な発想で創りあげる楽しさ」、「感じたまま素直に表現する楽しさ」、「自由に動く楽しさ」が動きや動き方の価値観あるいは方法の具体的記述に支えられていた。

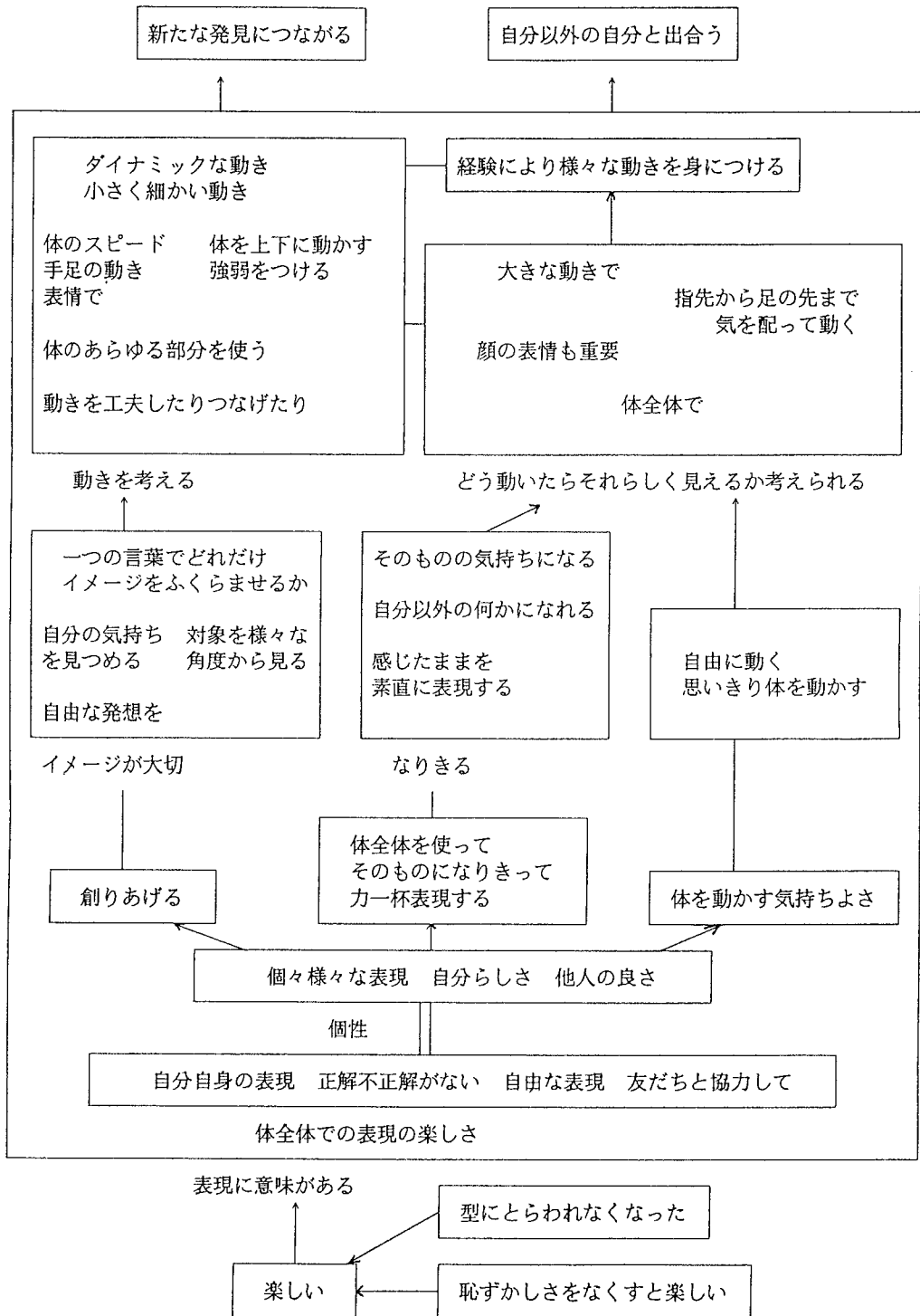


図 3 受講生の表現運動観

「新たな発見」や今まで知っていた「自分以外の自分」と出合えることも含め受講生の得た表現運動観は、「個性」をキーワードに、「創りあげる楽しさ」と「体を動かす楽しさ」、そしてその両極をつなぐ「なりきる楽しさ」、すなわち、他の運動種目や表現形式では味わえない、表現の主体と素材と媒体のそれぞれの楽しみを味わいながら行きつ戻りつする楽しさとして記述されたと考えられる。

(3) 自分なりの表現運動の指導観を持てたか  
「自分なりの表現運動の指導観を持てましたか」の質問に対しては、持てた26.6%、まあまあ持てた71.3%、持てなかった1%、無回答1%だった(図4)。

指導観の具体的な内容は表2のようであった。

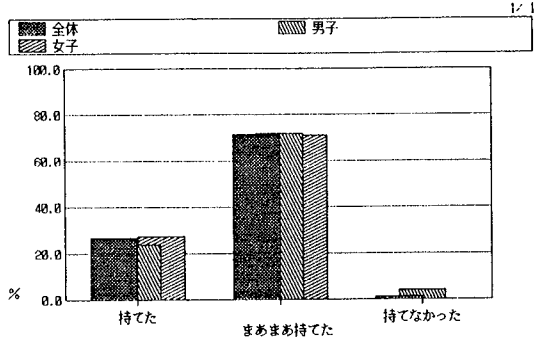


図4 指導観を持てたか

表2 受講生の表現運動指導観

項目 (人)		内容 (人)
表現技能	動きの見つけ方 (創る技能) 37	型にとらわれず動くよう指導 5 子どもの表現したいことを感じとる 5 体を動かしイメージを感じとらせる 3 取り組みやすいテーマ 3 対象を見せる 3 様々なテーマの表現で能力を高める 3 感じたことを素直に表現できる環境づくり 2 等
	動き方 (踊る技能) 6	体中いたるところを使えば色々の表現が可能だ 2 体いっぱい使って大きく表現する 2 教師が率先して体中を使って表現する 1 体育館を大きく使う 1
身体による表現活動としての表現特性に関するもの 19		自分らしさを自然に出せるような指導 5 体を使って表現するおもしろさ 4 ダンスは楽しくやるのが一番 4 一人一人の良さを見つけ引き出す 3 一生懸命からだを動かすことからさせたい 2 身体を動かす爽快感 1
その他 12		教師自ら参加して 4 自分の表現を見せること 1 創作だけでなくジャズやフォークダンスもな表現であり、それらを組み合わせた楽しい授業 1 踊る方に必死でそこまで行かなかった 1 等

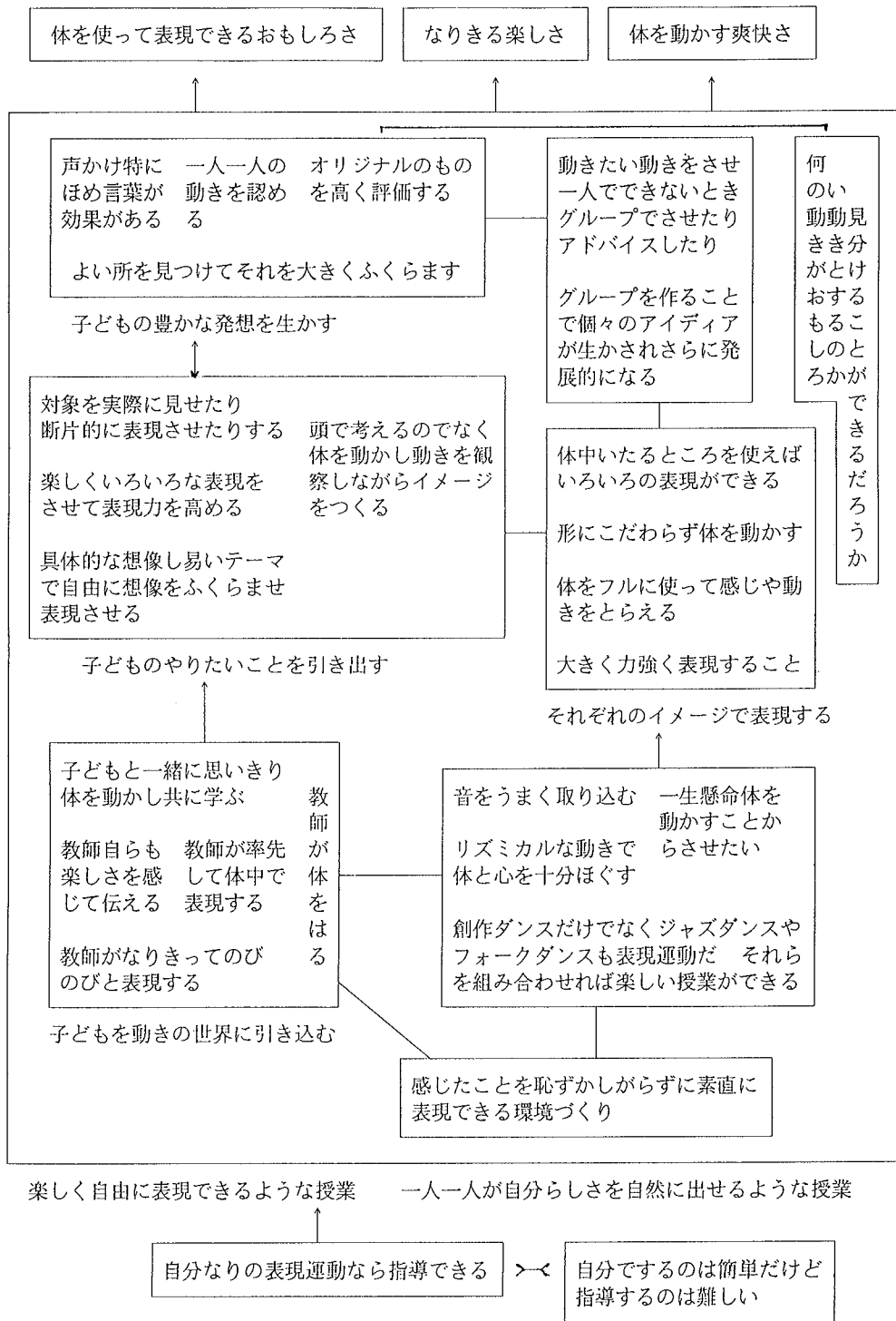


図 5 受講生の表現運動指導観

ダンス観と関連した内容が上げられていたが、指導観では自らの体験に基づいた言葉として、表現技能、特にテーマをとらえることを中心とした、創る技能に関するものが多く上げられていた。

KJ法で指導観を眺望すると(図5)、「楽しく自由に表現できる」「一人一人が自分らしさを自然に出せる」表現運動の授業をイメージし、「子どもを踊りの世界に引き込む」「子どものやりたいことを引き出す」「子どもの豊かな発想を生かす」ことを通して、「身体を使っているいろいろな表現ができるおもしろさ」「なりきる楽しさ」「体を動かす爽快さ」という学生自身の表現運動観へと向かっていた。

そして、「子どもと一緒に思いきり動く」「一人一人の動きを認める」指導者像があった。これは、「恥ずかしさをなくすと楽しい」「型にとらわれなくなった」という受講生自身の表現運動の楽しさへの入り口への指導者像として興味深い。「子どもと一緒に思いきり動く」「教師自らも楽しさを感じて伝える」ことを、「感じたことを恥ずかしがらずに素直に表現できる環境づくり」の必要な要素とらえている。

「子どものやりたいことを引き出す」手がかりとしては、「対象を実際に見せ」「具体的な想像しやすいテーマで」「体を動かしながらイメージを創る」など「いろいろな表現を体験させて表現力を高める」ことを得ている。

#### (4) どんな内容が印象に残ったか

6回の授業の中で「どんな内容が印象に残ったか」の質問への自由記述による回答では、創作・表現の内容へのプラスの印象が残った者56人、マイナスの印象が1人、リズムカルなダンスの内容を上げた者が35人(プラス)と8人(マイナス)、フォークダンスは21人が印象に残ったとして上げている。フォークダンスへのマイナスの印象はなかった。その他動きづくりに関するものが12人(プラス11, マイナス1)にあげられていた。

創作・表現の内容では「しんぶん君」の内容が、27人という最も多くの学生からプラスの印象として上げられていた。新聞紙を「とらえ」「表現する」手がかりとした内容は、「身体全体を使ってそのものになりきって力一杯表現する」ことが即座に可能で、「新たな発見につながる」ものとして体験されたと思われる。また、これまでの受講生も、教育実習で表現運動の手がかりとして試みることの多い内容でもあることから、指導者としてこれなら自分もできそうだったのではないかとも思われる。

表現の内容で「しんぶん君」の次にプラスの印象として多く上げられた内容は発表会であった(11人)。発表会では、表現の多様性や、友だちの意外な側面を発見できること、創作し練習した成果を、空間いっぱい動いて発表できた達成感が上げられていた。

発表会での達成感、多様な表現との出会いはまた、受講生が「恥ずかしさをなくす」きっかけの一つであったと考えられる。見られる恥ずかしさから、見るおもしろさ、見てもらう楽しさへ転換させられる内容として、発表の機会に改めて目を向けたい。

リズムカルなダンスに対するマイナスの印象は、上手に動けなかったとか、小さい動きしかできなかった、ピッタリ合わなかったなどであった。「上手に」の言葉は、表現に関しては出てこなかった評価である。また、音楽にのって即興的に動きを出し合うメチャクチャダンスは楽しかったとする者も多いが、自分の順番のとき動きが見つからなかったとする者もあり、動きの手がかりの不徹底を示唆するものであった。



(5) その他 (今後のこの演習へのアドバイス等)

その他 (今後のこの演習へのアドバイス等) では、指導内容に関するものが34、受講しての感想31、指導の仕方に関するもの18だった。

指導内容に関するものには、今回の内容に入れられなかった伴奏音楽づくり、ビデオによる作品の見直し、音楽や歌によるイメージづくり等の要望があった。また、もっと時間をかけての作品づくり、クラス全体での作品創り、班での創作活動を増やす要望があった。授業の流れが速すぎるとの意見、盛りだくさんで忘れた内容もあるとの意見もあった。楽しかった反面、「小学生に戻ったつもりで受けてしまう傾向があるので、指導観とかをもっと強調した方がいいと思った」と、指導者養成の内容としての工夫を求める感想もあった。

Bグループは、基礎実習 (教育実習) を挟んでの受講であったが、「実習で教育についての考えが変わった。実習後に授業を受けても悪くないな」と書いた者もあった。

時間の確保で解決しなければならない問題が多いが、内容をさらに精選するよりも指導者としての教育内容を深めていくことを受講生は望んでいるように思われた。

#### 4. 結 論

以上のように今回の授業は、6回ではあったが、受講直後の学生には、表現運動観や指導観を一応持てたと感じさせる内容であったと言える。

具体的に書かれた表現運動観では身体の運動による表現というダンスの特性の楽しさを多く上げていたのに対して、指導観では、その楽しさを体験させるための動きの引き出し方の記述が多く、ある程度指導への手がかりをつかんだのではないかと思われる。

表現運動の楽しさは「個性」をキーワードに、「表現の主体と素材と媒体の間を行きつ戻りつする楽しさ」として味わわれたと考えられる。

指導観としては、「楽しく自由に表現できる」「一人一人が自分らしさを自然に出せる」表現運動の授業をイメージし、「子どもを踊りの世界に引き込む」「子どものやりたいことを引き出す」「子どもの豊かな発想を生かす」ことを通して、「身体を使っているいろいろな表現ができるおもしろさ」「なりきる楽しさ」「体を動かす爽快さ」という学生自身の表現運動観へと向かっていた。そして、表現運動の楽しさを子どもに味わわせるために、「子どもと一緒に思いきり動く」「一人一人の動きを認める」指導者像があった。

表現指導の手がかりとしての具体的な内容の次に印象に残った内容として、発表会があげられていたが、発表会での達成感や多様な表現との出会いは、見られる恥ずかしさから見るおもしろさ、見てもらう楽しさへ転換させられる内容として改めて目を向けたい。発表の機会の持つ内発的な学習へつなげる要因の解明は今後の課題である。

一方、受講生からの指摘にあったように、じっくり時間をかける内容が入れられなかったり、短時間に盛りだくさんの内容になったり6回の授業回数では不十分なことがわかる。楽しかった記憶だけが残り、指導力につながらなくなってしまう可能性は十分にある。内容的にも実際の指導力につながる内容をいかに入れるかの問題が残った。

他大学での小学校体育の13回かけての授業内容では、授業3回分の時間をかけての作品づくりや、学生の班がリーダーをしての指導の体験など入れられている。<sup>(7)</sup>また今回の受講生の中に、一年次指定の体育専門のダンスを受講し、舞台での発表会を体験している学生が15人 (約23回の授業数)、ダンス部の学生が2人 (1年生時より入部) いるが、これら、一年以上の経験者では、それ以外の

受講生に比べ、ダンス観がより自己の内側からのものであり、指導観ではより具体的な方法をつかんでいると思われた。

10月から11月にかけて、現職教員を対象とした表現運動・ダンスの公開講座開催の機会を得たが、受講後の質問紙調査で、学生時代のダンス経験で「指導観を持てた」が12人中2人、「ダンス観が持てた」が3人あったが、これらの内3人が、一年以上履修経験のある体育専門の教員だった。小学校教員と保育園の保母の多くが「観を持つところまで行かなかった」（6人）り、経験なし（1人）だった。

今回の受講生が持った表現運動観や指導観が卒業後まで残っているかどうか、それが卒業後の指導実践につながるかは追跡調査によるしかない。時間の確保ができなければ、楽しさの印象だけでなく表現運動観や指導観としてどのように印象づけるかが課題である。

## 文 献

- (1) 松本富子他 現職教員のダンス指導実践に影響を及ぼす要因の検討 —大学時履修経験が与える影響について— 舞踊学 第16号 pp.12-23 1994年
- (2) 松本富子他 ダンス指導の現状と課題 —全国小学校・中学校・高校現職教員への意識調査から— アジア国際舞踊会議発表論文集 pp.74-84 1993年
- (3) 佐分利育代 廣兼志保 ダンス指導実践に関わる現職教員の意識 —中学校を対象として— 鳥取大学教育学部研究報告（教育科学） 第36巻 第2号 pp.309-329 1994年
- (4) 廣兼志保 佐分利育代 山陰地方における中学校教員のダンス教育に対する意識と指導状況について —学習内容の拡大に向けて— 山陰体育学研究 第10号 pp.45-55 1995年
- (5) 佐分利育代 小学校教員養成課程におけるダンス教育 鳥取大学教育学部研究報告（教育科学） 第25巻 pp.129-143 1983年
- (6) 西田春彦 新陸人 篇 社会調査の理論と技法(1) 川島書店 1976年
- (7) 村田芳子 第15回全国創作舞踊研究発表会・VTR発表資料 日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門 1995年